

31 回目

令和元年 5 月 2 日

「食の原則4 食事から化学物質をできるだけ除く」
避けることの難しい化学物質の現状と新しい試み

ドクター統合

続いて第 4 の原則です。

【原則 4】信用度：優 特性：晩秋

水も含めたすべての食事から化学物質をできるだけ除く。

ミスター左脳

食品添加物や農薬などの化学物質が食品中に入っていないほうがいいのはもちろんですが、添加物を入れないと食べ物が腐りやすかったり、農薬を使わないと虫がついたりしていい食品ができないから使っているわけですね。

そういう意味では、ある程度の化学物質が食品に含まれているのは、コンビニなどができた今の時代には特にしかたがないのだらうと思っています。

それに、今お店で売られている物は、最低限の安全性は保証されていると信じて買っているのですが、そういう考え方は間違っていますか。

ドクター統合

流通経済が世界中に広がった現在、食品をできるだけ効率的に作る、長持ちさせるといった目的で、多くの種類の化学物質が食品の中に含まれるようになっていきます。

その現状をふまえて、一般的にはまず毒性試験を行い、安全な化学物質と禁止すべき化学物質をわけているということになっています。

しかし、残念ながら、この毒性試験には様々な問題点があります。

たとえば、毒性試験に使っている動物が多くの場合マウス、ラットなどであり、人間に近縁のものではないため、現在までの毒性検査法で無害とされていても、人間にとって本当に無害であるとは言い切れません。実際、過去には、毒性がないと認可されたにも関わらず、市場に出てから問題が発覚し、禁止される化学物質もありました。

たとえば、私が小さい頃にはチクロという人工甘味料が多くの食品で使われていたのですが、発癌性や催奇形性を指摘され、禁止されたことがあります。

ミセス右脳

やはり、できるだけ化学物質の入っていない食品を買う必要があるんですね。

ただ、難しいのは、化学物質は生産した後に食品に添加されるものだけではなくて、生産する段階で、農薬などの化学物質が入ってしまうということもありますよね。それについてはどう考えればいいのでしょうか。

ドクター統合

そうですね。

生産する段階で入る化学物質の代表は、化学肥料と農薬でしょう。

これらを使用することで、食品の質が悪くなっているのは事実です。

まず、化学肥料を使用することで、土壌のミネラルのバランスを崩し、土壌が酸性化したり固化したりして土壌中の微生物に悪影響を与え、地力を低下させます。

地力が低下すると、その土壌から生ずる作物の病虫害に対する抵抗性が下がり、そのための農薬を使用せざるをえなくなる、ここから悪循環がはじまります。

農業ポータルサイト「農業JAPAN」メールマガジン